

東邦大学データサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル） 概要

プログラム構成科目

学部	科目名	学年	単位数	対応審査項目
医学部	データサイエンス (★)	1	2	①、②、③、④、⑤
	数理情報学Ⅱ	1	1	⑤ (2-1のみ)
薬学部	数理データサイエンスAI入門 (★)	1	1	①、②、③、④、⑤ (⑤は2-1、2-2)
	データサイエンスリテラシー演習	1	1	⑤ (2-2、2-3)
理学部	情報科学A1 (★)	1	1	①、②、③、④、⑤ (⑤は2-1、2-2)
	情報科学A2	1	1	⑤ (2-2、2-3)
看護学部	アカデミック・スキルⅠ (★)	1	1	①、②、③、④、⑤ (⑤は2-2、2-3)
	基礎統計学	2	1	⑤ (2-1)
	疫学と保健統計	3	2	⑤ (2-1)
	研究方法論	3	2	⑤ (2-2、2-3)
健康科学部	データサイエンス (★)	1	1	①、②、③、④、⑤ (⑤は2-2、2-3)
	保健統計	2	1	⑤ (2-1)

< MDASH審査項目 >

- ① 数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること
- ② 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること
- ③ 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること
- ④ ただし数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること
- ⑤ 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること

(★) マークのある科目は、全学部共通内容の動画教材「[大学生のためのデータサイエンス：東邦大学共通教育パッケージ](#)」を授業に組み込み

大学生のためのデータサイエンス：東邦大学共通教育パッケージ（50分×7回）

回	タイトル	テーマ	
1	データサイエンスの広がり	【前半】 社会で起きている変化	【後半】 社会で活用されているデータ
2	データ・AIの活用領域と技術	【前半】 データ・AIの活用領域	【後半】 データ・AIの利活用のための技術
3	データ・AI利活用の活用動向と利活用の上での留意事項	【前半】 データ・AI利活用の現場と最新動向	【後半】 データ・AIを扱う上での留意事項
4	セキュリティとプライバシー	【前半】 データサイエンスと情報セキュリティ	【後半】 データサイエンスとプライバシー
5	機械学習	【前半】 教師なし学習	【後半】 教師あり学習
6	深層学習の最新動向とデータサイエンスのためのソフトウェア	【前半】 深層学習	【後半】 データサイエンスのためのソフトウェア
7	医療におけるデータサイエンスの利用	【前半】 医療におけるデータサイエンスの利用 (1)	【後半】 医療におけるデータサイエンスの利用 (2)

POINT

- [各学部の担当教員が分担して](#)、全7回の動画教材を作成
- 各学部の専門に依らず、[大学生として身に付けておくべき数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの知識](#)を、全学統一動画教材により学修
- 自然科学系総合大学として、医療に係る学修・研究を行う学生が多いことを背景に、[医療におけるデータサイエンスの利用に関する講義回を設定](#)
- 動画はLMSを経由して展開され、[学生は繰り返し視聴することが可能](#)
- 知識確認用の小テストも統一のものを作成し、LMSの小テスト機能により展開